

HSK

遊 ぼう よ

No. 61



たまご選び、真剣です。

野菜炒めの材料を切っています。



体験室を利用して自立生活体験をしている様子。買い物や調理をしています。



野菜炒めと卵焼き。おいしかったです。

＜東日本大震災＞ 被災障害者救援支援！ 「ゆめ風ネット富山」を富山の仲間と立ち上げました

今年の3月11日に起きた東日本大震災は、非常に広範囲でマグニチュード9.0という地震と津波、そして原発事故が起きましたが、復興に向けた取り組みが始まっていますが、現状はまだまだ厳しい状況にあります。

少し富山での動きは遅くなりましたが、被災障害者の救援支援の活動を始めました。募金活動、街頭カンパ、支援バザー、被災障害者の受け入れ等を行っていきたいと考えています。私たちの活動にご支援とご協力をお願いします。文責：平井

《趣旨書》

1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災を機に被災障害者救援を目的に、被災地に住む障害者とそれを支援する大阪の障害者たちが中心になって、呼びかけ人には、小室等さん（代表）や永六輔さん（権代表）たちになっていただき、NPO法人「ゆめ風基金」が設立されました。

「ほんとうに必要なところへ確実にしっかり届けたい」ということをモットーに、いち早く正確な情報が得られるネットワーク「ゆめ風ネット」を全国に築き、富山でも「ゆめ風ネット富山」として加盟してきました。

去る3月11日(2011年)の東日本大震災は地震・津波・原発事故という、かつてない自然災害と人災が広い範囲でもたらされています。一瞬のうちに多くの人々の生命が失われ、さらに住居や生活が奪われ、今も原発事故の行方すらわからないまま、不安と恐れの中で避難生活が送られています。

また、地方自治体が機能しなくなったところ、集団で他の市町村に住民と移動しなければならぬところが出てきています。

この、戦後最大級の東日本大震災の支援は、今始まったばかりです。地震大国日本において、多くの原発が作られており、災害・事故はいつどこで同じ事が繰り返されるか判りません。

ゆめ風ネット富山は、今回の東日本大震災にゆめ風ネットで被災障害者の支援を「協働」して行います。

＜具体的内容＞・被災障害者の支援のためのカンパ集め。(イベント等)・被災障害者の受け入れ。・被災地の情報収集と提供。・ゆめ風基金との連携。・協力者への情報提供等。(メーリングリスト等)・関係機関への働きかけ。・その他必要性に応じて検討していく。

（連続講座） 障害者が働こうとするとき、もう一つの現状
第1回 「私が働き、自立すること」 実施日 2011年3月5日（土）

講師の森本おりえさんは三重県在住の29歳。生まれながらの視覚障害を持ち盲学校から普通学校へ転校、現在は社会福祉士の資格を生かして相談業務の仕事に就いておられます。以下、当日の講演内容を編集部で要約したものです。



（森本おりえさん・講演要旨）

現在、津市内の障害者支援相談センターで週3日～4日働いている。社会福祉士の資格で相談員をしている。教育機関で指導員として働いたこともある。働きながら社会福祉士の試験にチャレンジして4回目で受かった。障害のある人の就職は厳しい。スタートラインからはずれてしまう。点字の試験が三重県では受けられない。私は点字を使用しているが墨字に耐えうる者という表現がある。ハローワークに登録したがパソコンの入力の仕事しかない。目で判断する仕事は限界がある。説明会には行ったが障害があつて国家試験を取得して仕事を探しているという発想はハローワークの人に欠けている。大学でも「資格をとれ」というが取得後どうするのかはない。

面接支援も受けて今働き始めて1年半。春で2年くらいになる。職場の雰囲気は左右される。相談業務なので空気を読むことの大切さを感じる。場数を踏むしかない。空気を読めないと周りから必要以上に言われる。障害ゆえということもある。いろいろな相談がある。圧倒的に精神の相談が多い。誰でもいいから話をきいてほしいという人もいる。世間話で納まる人もあれば消えて無くなりたいたいという人もいる。聞きすぎて親身になりすぎると、「それはどうなの？」といわれることがある。今現在も自分に出来ることは何かを模索している。私の働き方はこんな感じ。

三重県の状況について就労担当者が言うには、障害を隠して就労する人もいるが、失敗するケースもある。障害のことをいうと賃金が下がるので障害を隠して働くという。三重県は去年障害者の雇用ワースト1位。障害者の雇用がなぜ進まないのか。本人の課題もある。企業側、周りの意識も大事。今の教育は地域で生活していくことにつながっているのか。特別支援学校に行く人の高校卒業後の進路について親として色々思いがあるだろうが、同じ障害を持つ人同士でつながってほしい。健常者ともつ

ながつてほしい。両方の思いがある。

1つのケース、一般的には養護学校卒業後作業所に行くのが主流だが、作業所の人間関係でつまずいてうつ状態になった。家にいると家族とうまくいかない。どうしたらいいのかという相談がある。地域の学校へ行ったからといってすべて自分で決めて動けるとはいえないが、意識して自分のことは自分で決めることの重要性は小さいときから意識してやっていく。いろんな状況で決められない時は回りのフォローが必要。

最近、発達障害など障害の種類が増えた。教育そのものが危ない方向に進んでいるのではないかと。人それぞれ弱点や課題がある。いろんなことを一緒にやること、障害を持つ子がいることで手助けすることで逆に手助けする側が救われる面がある。教育の場面で分けておいて就労が進まないといっても教育の現場から見直しが必要ではと感じる。障害のある人の就労に感じること。誰にとっても働きやすい職場が大切。支援センターでも殺伐した人間関係がある。質問したら逆切れされた。誰にとっても働きやすい職場を目指すのは難しいが相談業務なので周りとの関係が大事になる。連携が必要。こんな状況をどうしたらいいと気軽に話せる環境が大事。お互いの良さを認め合う。周りの人から学んでいこう。同僚や利用者から学んでいこうという姿勢が大事。障害や健常は関係なく。教育と就労は切り離して考えられない。教育の現場から考え直したらいいのでは。教育の場で一緒になかった人が職場に突然やってもとまどうのは当たり前。自分が障害をもたない立場だとしても戸惑うと思う。どこまでが配慮でどこからが特別扱いか。そのつど意見交換する。困ったことがおきたら話し合っている。実際には出来ていないことも多いが自分自身の課題でもある。できること、企業がそういうなるのは仕方ないがワークシェアリングもあるが、即戦力を求められると重度の障害者がおいていかれる。手助けをしてもらったときは感謝の気持ちを示す。感謝を必要以上に求められる場合は別だが感謝の気持ちを忘れてはいけないと思う。就労は厳しいので自分の課題も多いが自分の出来る限りのことはやっていきたい。自分に言い聞かせているが首を切られるまではがんばるぞと思っている。最後までありがとうございました。

※頁の都合上、質疑応答は省略しましたが、会場から「いつ頃、自分の障害を受け入れましたか」とか「お父さんのカレー屋さんを継ごうと思わなかったのですか」など沢山の質問が出ました。



自立生活支援センター富山の主な動き



〈この間の活動報告〉

1月19日(水)	送迎	富山市内
1月21日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
1月28日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
1月29日(土)	第8回講師派遣〔富山県の療育を考える会〕	恵光学園
1月31日(月)	第9回理事会	リーぶる事務所
2月4日(金)	ケア会議出席	身体障害者更生相談所
2月4日(金)	相談支援ワーキング出席	富山市役所
2月8日(火)	ケア会議開催	富山市内
2月13日(日)	送迎	富山市内
2月15日(火)	出張ピアカン開催	高志授産ホーム
2月17日(木)	専門支援ワーキング出席	和敬会生活支援センター
2月18日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
2月20日(日)	日曜相談会開催	リーぶる事務所
2月20日(日)	自立生活体験	自立生活体験室
2月21日(月)	HSK(北陸定期刊行物協会)役員会出席	自立生活体験室
2月24日(木)	自立支援協議会出席	富山市役所
2月24日(木)	相談支援事業者連絡会出席	サンフォルテ
2月25日(金)	ケア会議開催	富山市内
2月26日(土)	障害者差別禁止法ワークショップ参加	福井市内
2月26日(土)	長瀬修氏講演会 & 対談(文福)参加	サンシップとやま
2月27日(日)	NPO法人サンダーバード第2回富山研修フォーラム参加	サンシップとやま
3月4日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
3月5日(土)	連続講座第1回「私が働き自立すること」開催	サンシップとやま
3月15日(火)	出張ピアカン開催	高志授産ホーム
3月19日(土)	第1回ゆめ風ネット富山会議開催	サンシップとやま
3月20日(日)	日曜相談会開催	リーぶる事務所
3月20日(日)	自立生活体験	自立生活体験室
3月23日(水)	専門支援ワーキング出席	和敬会生活支援センター
3月25日(金)	第2回ゆめ風ネット富山会議開催	サンシップとやま
3月26日(土)	ゆめ風基金総会出席	大阪KOKプラザ
3月27日(月)	東日本大震災—私・たちは今「何をすべきか」被災難民支援のための支援ネットワークを考える会参加	サンフォルテ
3月28日(火)	送迎	富山市内
4月5日(火)	ケア会議出席	富山市内
4月8日(金)	第3回ゆめ風ネット富山会議開催	サンシップとやま
4月8日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
4月13日(水)	第4回ゆめ風ネット富山会議開催	サンシップとやま
4月15日(金)	相談支援ワーキング出席	富山市役所
4月17日(日)	日曜相談会開催	リーぶる事務所
4月19日(火)	出張ピアカン開催	高志授産ホーム
4月20日(水)~21日(木)	自立生活体験	自立生活体験室
4月21日(水)	第5回ゆめ風ネット富山会議開催	サンシップとやま
4月22日(木)	専門支援ワーキング	和敬会生活支援センター
4月29日(金)	送迎	富山市内
4月29日(金)	車いす市民集会世話人会参加	名古屋市内
5月5日(木)	送迎	富山市内
5月6日(金)	事務局会議	リーぶる事務所
5月11日(水)	第6回ゆめ風ネット富山会議開催	サンシップとやま
5月12日(木)	ケア会議開催	富山市内

施設（その1）

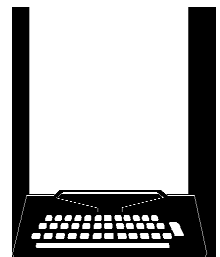
草島 昇

僕が施設に入ったのは10歳だったっけ。それも石川県の小松市の山の奥。白い建物がやけにおおきく見えた。後でわかった事ですが、墓場の土地を安く買上げた地元の人達から聞いた。さて白い建物の中はまるで地獄。まずは先輩との会話の中で、少しでも生意気な言葉を使えば「お前は生意気だ」と死ぬほど殴られた。看護婦からはいつもねちねちと「この県外者が。文句や不満がある奴は出て行け」とどなりつける。同じ県外者でも親によりけりでたいぐうが変わる。学校は先生に叱られて、先輩には生意気だと言われ続けた。

僕がたしか15歳のときに友達とプロレスごっこをしていて左足の人差し指を根元から折ってしまった。それからギブスをしながら長いこと寝ていたんだけど、ギブスを取れるまで半年以上かかったかな。それから学校に行ったんだけど、勉強がどこまでいってるのか分かんない（誰も教えてくれなかった）。せっかく親指と人差し指の間に鉛筆を挟んで字や絵を描こうとしていたのにそれが夢と消えていった。とにかく勉強は分かったけど、ついていくのが超大変だった。

そのころ学校に電動タイプライターが入ったので、どうしたら使えるのかと考えてみた。親指はでかすぎる。人差し指は使えない。まてよ小指が使えるんじゃないか。俺は左利きだから、右足だったら親指だけど、左足だったら小指でいいんじゃないかなと思わずつタイプライターを打つ練習を始めてみた。学園に戻ればまた先輩から怒鳴られ、看護婦からチクチクいじめられ、何かいいことないかなと思っただけだった。タイプライターを前にしても中々小指がうまく思うところについてくれない。タイプライターは無理かな。いいや放課後に残って練習すればいいんだ。そうすれば看護婦の嫌味からも逃げられる。先輩からも逃げられるんじゃないか。まあ学校の先生には苛められるかもね。まあ仕方ない。やるだけやってみようと思っ、タイプライターを放課後残って練習を始めた。

どのくらい経ったか忘れたけど何となく文章らしきものが書けるようになってきた。一つ書けるとまた一つ書こうとする気になり面白くなってきた。どんなに寒くても平気だった。若かったから。まあその頃には看護婦の嫌味も少し効かなくなったかな。先輩からも苛められることもないし、ああこんな生活いつまで続くのかな。僕はその気持ちを電動タイプで詩に書いてみた。



はじめ何を書こうかと迷ったんだけど一番得意なものを書こうと思って詩を書いてみた。来る日も来る日も放課後の寒い教室で、あれから先生たちに何だかんだ言われるけどね。少し楽しみが増えてきたような気がした。もっと詩を書こう、もっと詩を書こうという気持ちで嫌なことから逃げていたのかもしれないけどね。そんなことがあって何年か経ったときにどうなってるのかなと思い、がむしゃらにタイプライターに取り組んでいた。やがて「お前は良い詩を書くな」とやっとお褒めの言葉をいただくようになったかな。そんなとき僕の心の中で「これから。これから」といつも自分に言い聞かせていた。学校の劇の脚本とか僕が書いて劇をやった。雪女を書いた覚えがある。だけど県外者というレッテルは取れることがないけどね。そんなこんなで母に「帰って来い」と言われた。だけど僕はまだ帰りたくないからやめておくとやった。友達もやっつとできかけた頃だったし。今自分が富山に帰っても何もないからと思った。まだまだ学校の放課後のタイプライター打ちの練習を続けていた。文章はうまく打てるようになったら今度は何を書こうと思うようになった。そうだ、俺は詩を書けるんだ。詩を書こう。それから何年かしてその詩が世の中に出るとは思わなかった。

時は流れて学校を卒業して何気なくぶらぶらしていたときだった。家に電話をかけたら姉ちゃんが出てきて「お母さんが倒れた」と聞いた。心筋梗塞だと聞いた。僕はとりあえず病状だけを細かく聞いた。もう手遅れかな。それからしばらくして母は帰らぬ人となった。父は母の葬式が終わって過労で倒れた。僕は仕方なく小松へ帰った。父はしつこく「富山に帰って来い」。断る理由が見つからないので富山の施設に入った。（次号に続く）



左足でパソコンのキーボードを操作する
草島昇さん

新メンバー紹介



作業所部門（富山生きる場センター）に4月から新しいメンバーが増えました。

氏 名：中崎拓大

生年月日：平成4年6月3日

血液型：O型

星 座：ふたご座

趣 味：なるぼとハイスクールを見ること

得意科目：歌

好きな芸能人：櫻井翔

干 支：申年



会費納入のお願い

■ 日頃、私共の活動にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。今回の機関紙に会費納入用の振込用紙を同封させていただいております。既にご入金済みの方には失礼ご容赦下さい。

前年度に皆様よりお寄せいただいた会費収入の合計金額は12万9千円でした。ありがとうございました。有効に使わせていただきます。今後も私たちの活動を応援してくださる方達を増やしていくためPR活動や事業内容の充実など更なる努力が必要であると痛感しております。

機関紙にお名前掲載の許可をいただいた会員のみお名前を掲載することにしておりましたが、掲載の可否について書かれていない振込用紙が多くしばらくの間、掲載を見合わせております。ご了承下さい。



平本 歩 さん

7/31(日)

午後1時30分～4時まで

連続講座 障害者の就労と自立とは、何か?

「障害者が働くとき—もうひとつの現状—」

「夜遊びしたい!働きたい!彼氏もほしい!」

会場 サンシップとやま704

<<プロフィール>>

1985年12月に生まれる。生後2ヶ月の時に入院し、6ヶ月の時に人工呼吸器をつけ、ミトコンドリア筋症という病名がつく。4歳の時に在宅し、地域の保育園・小・中・高校と通う。大学受験するが、失敗する。5年前、主な介護者だった父が亡くなり、今はほぼ毎日ヘルパーさんと過ごす。昨年4月から卒園した保育園に、講師として行っている。

2007年8月から、バクバクの会(人工呼吸器をつけた子の親の会)の編集長をしている。

趣味は旅行。今はまっていることは、ご当地キティちゃんのボールペンを集めること。彼氏募集中!!



私的「生きる場センター」の歩み ⑬



(沼田さとし)

◆どんでんがえし! 「出ないかもしれない」

…全てを掛けて移転、そして…

(1988年4月～10月)

1988年4月に入り、窓口の富山市民生婦人児童課は人事異動で新しい担当者が変わっていました。そして、「(助成金は)出ないかもしれない」というどんでん返しの言葉が…。6月に入り再び交渉を持ちました。すると、「(助成金を出す)環境作りが必要なのもう少し待ってほしい」とのこと。理由は、助成金を出す窓口である団体が、生きる場センターがその団体に所属していないため渋っていること、そして私達自身が法人ではないということでした。

その後、規約や予算書の手直し作業を何度も何度も行い、助成金が出るのか出ないのかわからない状況のまま時は過ぎました。

その中で、南富山にあった今までの事務所では狭く、車椅子のまま入れず、多くの障害者が集まって利用するには不都合な建物でしたので、8月末に一大決心をして、新しい事務所(富山市民生婦人児童課の今の場所)に引っ越しをすることにしました。因みに、この物件を探してくれたのは、先日72歳で亡くなられた大和秀雄さんが電動車椅子で地域をくまなく回って見つけてくれたことを特記しておきたいと思います。

「一大決心」と言ったのは決して大げさな表現ではなく、当時、設立3年にして、円高による古紙の引き取り価格低下に歯止めが掛からず、生きる場センターの売上げの中心であった古紙回収は厳しくなり、少しずつバザーやその他のことに取り組むものの運営は限界にきてい

ました。そこに安い家賃だった事務所から約倍の家賃の事務所へ移転をすることは、助成金が出るか出ないかわからない状況では、ほとんど掛けでした。もし、今年度中に助成金が出なければ生きる場センターは存続出来ない。でも、多くの障害者が地域で生きる場として存在をさせよう!

引っ越し祝いは、たくさんの支援の方々と共に盛大に行われました。この間、外に向けて訴えてきた成果が形になって見えるようでした。この半年間はとにかくいろんなことをしました。廃油から石けん作り、牛乳パックから和紙ハガキ作り、廃品回収で集めた中から本や売れそうな食器や衣類を選び分けて毎月1回第一日曜の蚤の市や県内中のバザーに参加し販売したり、8月にはキャンプを企画し、有沢市営住宅地内での地域交流「かたらい市」などなど、外に向けて、いろんな人と関わっていく取り組みを貪欲に行っていました。

そして、助成金の書類の手直しが終わったのは、移転が済んだ秋風の吹く頃でした。

10月に入り、行政機関から視察に来られ、その時に助成金の申請書を始めとする助成金の振込先の銀行口座の手続きなどを行いました。富山市民生婦人児童課の課長さんが「何とか皆さん方の期待に添えるようになりました」と言われました。これまでのどんでん返しの経過があったので疑心暗鬼でしたが、一応、何とか「生きる場センター」は来年も活動することができるようになったのです。

(つづく)

◇ 編集後記 ◇

三月十一日以降、富山に住む私達の暮らしも変わりました。一期ですが、店頭からレトルト食品や飲料水、電池が消えたこともありました。富山から被災地へボランティアに行く方、逆に被災地から避難されて来る方もあり、微力ながら私たちも富山で支援活動を続けています。原発の問題もあり、息の長い活動になりそうです。

(文責 田中)



編集人：特定非営利活動法人
自立生活支援センター富山
連絡先：〒930-0024
富山市民生婦人児童課
レジデンス新川原 1F
TEL. 076-444-3753
FAX. 076-407-5557
郵便振替：00700-5-47253
自立生活支援センター富山
発行人：北陸障害者定期刊行物協会
富山市民生婦人児童課
富山市民生婦人児童課
富山市民生婦人児童課
定価：90円
年間購読料：360円